

保証書

持込修理 無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
 - (イ)使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
 - (ロ)お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
 - (ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛りなどによる故障及び損傷
 - (ニ)消耗または摩耗した部品、付属品の交換
 - (ホ)本書のご提示がない場合
 - (ヘ)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合(但し、販売店シールや領収証でも未記入項目の代用となります。)
 - (ト)本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
 - (チ)一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	CDラジカセ720T Bluetooth搭載			★お買い上げ日:	年	月	日
型番	RCD-720T	品番	03-5045	保証期間: 本体1年間(お買い上げの日から)			
お客様	ふりがな						
	★お名前 様						
	★ご住所 〒 - 電話 ()						

修理メモ

販売店	★住所 店名 電話			印

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
- ※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- ※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

OHM 株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
<https://www.ohm-electric.co.jp>

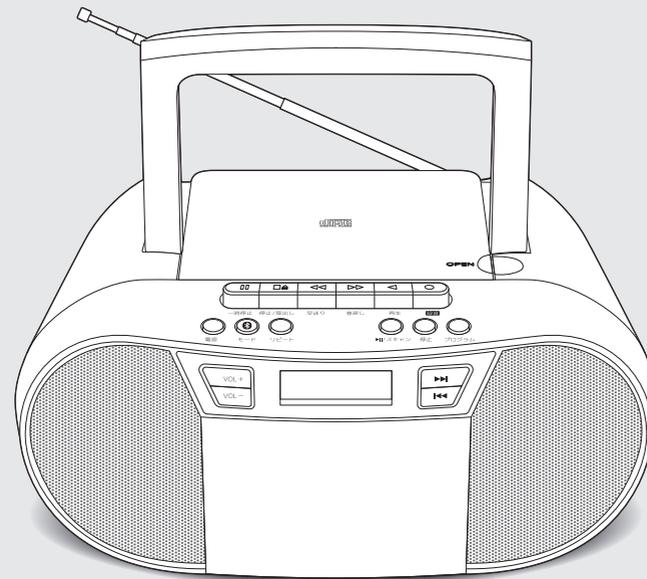
製品に関するお問い合わせは お客様相談室 へ	
●通話料無料	●携帯・IP・公衆電話からは
0120-963-006 048-992-2735	
電話受付	平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます
修理に関するご相談は 修理ご相談センター へ	
電話受付	048-992-3970 平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

AudioComm®

CDラジカセ720T Bluetooth搭載

型番: RCD-720T 品番: 03-5045

保証書付 取扱説明書



このたびは、AudioComm®製品を
お買い上げいただき、誠にありがとうございました。

本機の機能を十分に発揮させ、安全にお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますよう大切に保管してください。

目 次	
免責事項	1
著作権について	1
安全上のご注意	2~4
ご使用になる前に(CDについて)	5
ご使用になる前に(カセットテープについて)	6
ご使用になる前に(Bluetoothについて)	7
各部の名称	8
電源について	9
電源のオン/オフとモード切換	9
ラジオを聴く	10~11
CDを聴く	12~14
カセットテープを聴く	15
Bluetoothで音楽などを楽しむ	16~17
外部機器を接続しスピーカーとして使う	18
ヘッドホンで聴くときは	18
カセットテープに録音する	19~20
故障かなと思ったら	21~22
お手入れのしかた	23
主な仕様	24
保証書とアフターサービスについて	25
保証書	裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間及び経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

著作権について

放送やレコードその他の録音物(ミュージックテープ、カラオケテープ、コンパクトディスクなど)の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従ってそれらから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

安全上のご注意

電気製品は間違った使いかたをすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

-  △記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は「感電注意」が描かれています。)
-  ○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。(左図の場合は「分解禁止」が描かれています。)
-  ●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。(左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。)

警告

 コンセントから抜く	<p>万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く</p> <ul style="list-style-type: none"> ● そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ● 煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。 	 接続場所を選ぶ	<p>電源プラグはすぐに手が届く位置にある家庭用コンセントに接続し、異常が発生した場合は速やかに電源プラグをコンセントから抜く</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 手が届きにくい場所にあると、異常があったときに対応が遅れるおそれがあります。 ● 本機の電源を切っただけでは、完全に電力を遮断できません。
	<p>万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く</p> <ul style="list-style-type: none"> ● そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ● 販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。 	 接触禁止	<p>雷が鳴り始めたら、安全のため本機及び電源コードに触れない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 感電の原因となります。
 22cm以上離す	<p>心臓ペースメーカーを使っているときは装着部位を本機から22cm以上離す</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。 	 乾電池に注意	<p>乾電池は幼児の手の届かないところへ置く。本機から乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が悪く飲み込むことがないようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。

安全上のご注意(つづき)

警告	
 使用を中止する	電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止する ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。
 水かけ禁止	本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使わない ●感電や故障の原因となります。
 分解禁止	本機を分解、修理、改造しない ●火災・感電の原因となります。
 禁止	表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しない。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない ●火災・感電・故障の原因となります。 狭い場所や壁に押し付けるなど、通気が妨げられる場所に設置しない。また、本機に新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどをかけて通気口をふさがない ●火災の原因となります。
 禁止	本機の上に花瓶などの水が入った物を置かない ●火災・感電の原因となります。 電源コードを敷物などで覆わない ●気づかず重い物を載せてしまい、火災・感電の原因となります。 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●電源コードが破損して火災・感電の原因となります。 本機や電源コードの上に重いものを載せたり、電源コードの上に本機を載せない ●電源コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。 本機の上に、例えば火のついたロウソクなど、火災の原因となるような物を置かない 医療機器の近くで使わない ●電波の影響で誤作動の原因となるおそれがあります。

注意	
 ぬれ手禁止	ぬれた手で操作しない ●感電の原因となります。
 指を挟まれないように注意	お子様がCD扉やカセット扉内に手を入れないように注意する ●けがの原因となります。
 音量に注意	音量を上げすぎない。電源を切る前に音量を抑える ●大きな音量で長時間聴くと、周囲の迷惑になったり、聴力に悪い影響を与えることがあります。 ●音量が大きのまま電源を切ると、次に使うとき、突然大きな音量で出力されるおそれがあります。
 コンセントから抜く	旅行などで長期間本機を使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外す ●火災・液もれの原因となります。
 乾電池の極性に注意	お手入れの際や移動させるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●電源コードが傷つき、火災・感電の原因となります。 乾電池は、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示どおり正しく入れる ●間違えると乾電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

注意	
 アンテナを縮める	持ち運ぶときは、アンテナを縮める ●伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどして、けがの原因となります。
 掃除をする	電源プラグとコンセントの接続部を定期的に掃除する ●電源プラグとコンセントの間にほこりがたまり自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的に接続部のほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
 禁止	自動制御機器(自動ドアや火災報知器など)の近くで使わない ●電波の影響で誤作動の原因となるおそれがあります。 暖房器具や調理器具、浴室、加湿器のそばなど、油・蒸気・熱が当たるような場所に置かない ●火災・感電の原因となります。 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない ●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となります。
 禁止	電源コードを熱器具に近づけない ●電源コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となります。
	ほこりの多い場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。 ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない ●落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない ●電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ●必ずプラグを持って抜いてください。 指定以外の乾電池や使用推奨期限を過ぎた乾電池は使用しない。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わない ●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。 CDプレーヤーのピックアップレンズをのぞき込まない ●レーザー光が目当たると視力障害を起こすおそれがあります。 電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニターなど)に近づけない ●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。 シンナーやベンジン、アルコールなどで拭かない ●変形・変色の原因となります。

乾電池を安全にお使いいただくために	
液もれ、発熱、破裂などの事故を防ぐために、以下のことをお守りください。	
 警告	・火中への投入、加熱、分解をしない ・取り外した乾電池を幼児に触らせない ・ショートさせない ・直射日光や火などの過度の熱にさらさない
 注意	●万一、液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。 ●万一、もれた液が目に入ったときは、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。 ●使用済みの乾電池を廃棄する場合、自治体の条例などで決まりがあるときにはそれに従って廃棄してください。
	・⊕⊖の表示どおりに入れる ・指定以外の乾電池を入れない ・使用推奨期限内の乾電池を使う ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない ・使い切った乾電池はすぐに取り出す ・しばらく使わないときは乾電池を取り外しておく

ご使用になる前に(CDについて)

- 本機は通常の音楽CDのほか、CD-R、CD-RWディスクの再生に対応しています。
- ディスクに右のマークが入ったものをご使用ください。



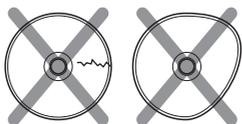
ご注意

- CD-R/RWディスク、レコーダー、書き込みソフトウェアの種類、状態によっては、再生できなったり、ノイズ、音飛びが生じる場合があります。
- ファイナライズ処理のなされていないディスクは再生できません。
- 本機ではMP3やWMAなど、圧縮されたフォーマットの音楽ディスクの再生はできません。
- DualDisc(デュアルディスク)については、コンパクトディスク(CD)規格に準拠していないため、動作・音質を保証できません。
- 現在発売されている「コピーコントロールCD」と呼ばれる著作権保護技術付音楽ディスクは、コンパクトディスク(CD)規格に準拠しない特殊ディスクであり、本製品における再生にあたりましては、動作や音質の保証は致しかねます。音楽ディスクパッケージの表示をよくお読みください。なお、「コピーコントロールCD」の詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

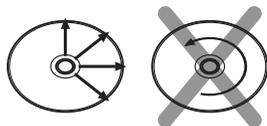


CD取り扱い上のご注意

- ひびやそりのあるディスクは絶対に使わないでください。



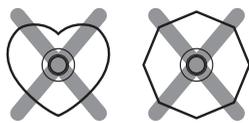
- 再生面を傷つけたり、指紋などが付かないようにしてください。指紋や汚れが付いたときは、柔らかい布などで中心から放射状に軽く拭き取ってください。



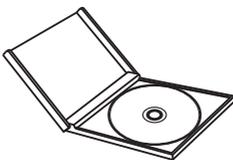
- 再生面はもちろん、レーベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。



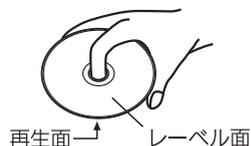
- ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは使用しないでください。機器の故障の原因となります。



- 使い終わったら本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。



- 再生面(虹色に光っている面)に触れないように持つてください。



結露について

寒いところから急に暖かいところに移動させると、レンズに水滴がついたり、くもったりする結露現象が起こります。この状態でご使用になると、正しく動作しないことがあります。このようなときはディスクを取り出して、数分間放置してください。結露が取り除かれて正常に動作するようになります。

ご使用になる前に(カセットテープについて)

本機で使用できるカセットテープ



C-60(再生/録音時間が60分)以内のノーマルテープ(TypeI)をお使いください。

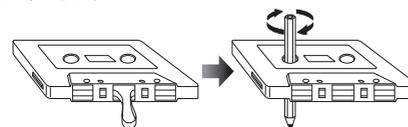


ハイポジションテープ(TypeII)メタルテープ(TypeIV)エンドレステープC-60を超えるノーマルテープ劣化したり、変形したカセットテープ

- ハイポジションテープ(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)、エンドレステープは使えません。
- ノーマルテープの場合でも、C-60を超える長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれるなどのトラブルの原因となりますので使わないでください。

カセットテープを聴く前の準備

- テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因となります。テープがたるんでいないかを確認、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。
- テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたものをお使いください。



カセットテープを操作するときのご注意

- 再生中に早送り/巻戻しをするときや、早送り/巻戻しから再生に戻るときなど、テープが動いているときは、必ず停止/取出しボタンでテープ動作をいったん停止させてから、次の操作を行ってください。テープのからまりや故障、破損の原因となります。
- 再生/録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるので、からまりや巻きつきの原因となります。

セミオートストップ機能について

本機にはセミオートストップ機能があり、録音/再生時にテープが終わりまで行くと自動的に止まり、押し込まれていた操作ボタンも自動的に上がります。ただし、早送り/巻戻しでは自動的に止まりません。そのまま放置すると故障の原因となりますので、必ず停止/取出しボタンで止めてください。

カセットテープへの録音機能と録音する前の準備

- 本機の録音レベルは一定ですが、Bluetooth接続やAUX接続で録音する場合は、外部機器の音量レベルにより影響を受けることがあります。
- 大切な録音をするときは、付属の電源コードのご使用をお勧めします。

録音する前の準備

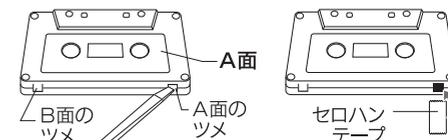
- テープがたるんでいないかを事前に確かめてください。
- ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押ししたりすると故障する場合がありますのでご注意ください。
- カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分(透明部)は録音できません。録音前にこの部分を送っておいてください。

保管上のご注意

使用後は必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。本機内に長期間入れたままにすると、からまりや巻きつきによって、本機及びカセットテープの故障、破損の原因となります。

大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合、カセットの後ろ側にあるツメを折っておくと、間違えて大切な録音を消去せずに済みます。再び録音したい場合は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。



間違えて消したくないときはツメを折る

再度録音したいときはテープで折った穴をふさぐ

ご使用になる前に(Bluetoothについて)

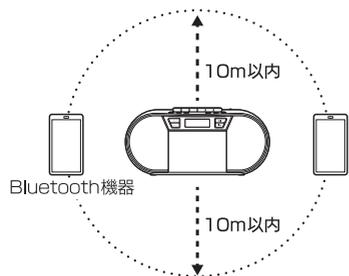
Bluetoothは、比較的距離の短いデジタル機器間(最大約10m以内: Class2の場合)で通信を行う無線技術です。ケーブル類で2つの機器をつなぐ必要がなく、手軽に音楽などを楽しむことができます。

バージョンとプロファイル

本機はBluetooth標準規格 Ver.6.0(プロファイル: A2DP、AVRCP、AVDTP、AVCTP)に対応しています。ご使用にあたっては通信相手となるBluetooth機器も、同じプロファイルに対応している必要があります。※すべてのBluetooth機器との接続・動作を保証したものではありません。※同じプロファイルに対応していても、性能・機能が制限される場合があります。

通信可能範囲

本機の通信範囲は最大約10mですが、人体、壁、金属などの障害物や電波状態によって有効範囲が変化します。できるだけ障害物がない空間でご使用ください。



セキュリティ

本機は標準規格に準拠したセキュリティ機能を有していますが、設定内容などによっては十分に対応できないおそれがあります。万一、情報漏洩などが発生しても、弊社は一切の責任を負いませんのでご了承ください。

使用周波数と注意事項

本機の使用周波数帯(2.4GHz帯)では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、及びアマチュア無線局が運用されています。

- ・ご使用の前に、近くでこれらの無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万一、移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の電源を切ってください。そのうえで弊社お客様相談室(保証書参照)にご連絡いただき、混信回避のための処置についてご相談ください。

- ・そのほか、特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合や不明点がありましたら、弊社お客様相談室までお問い合わせください。

機器認定について

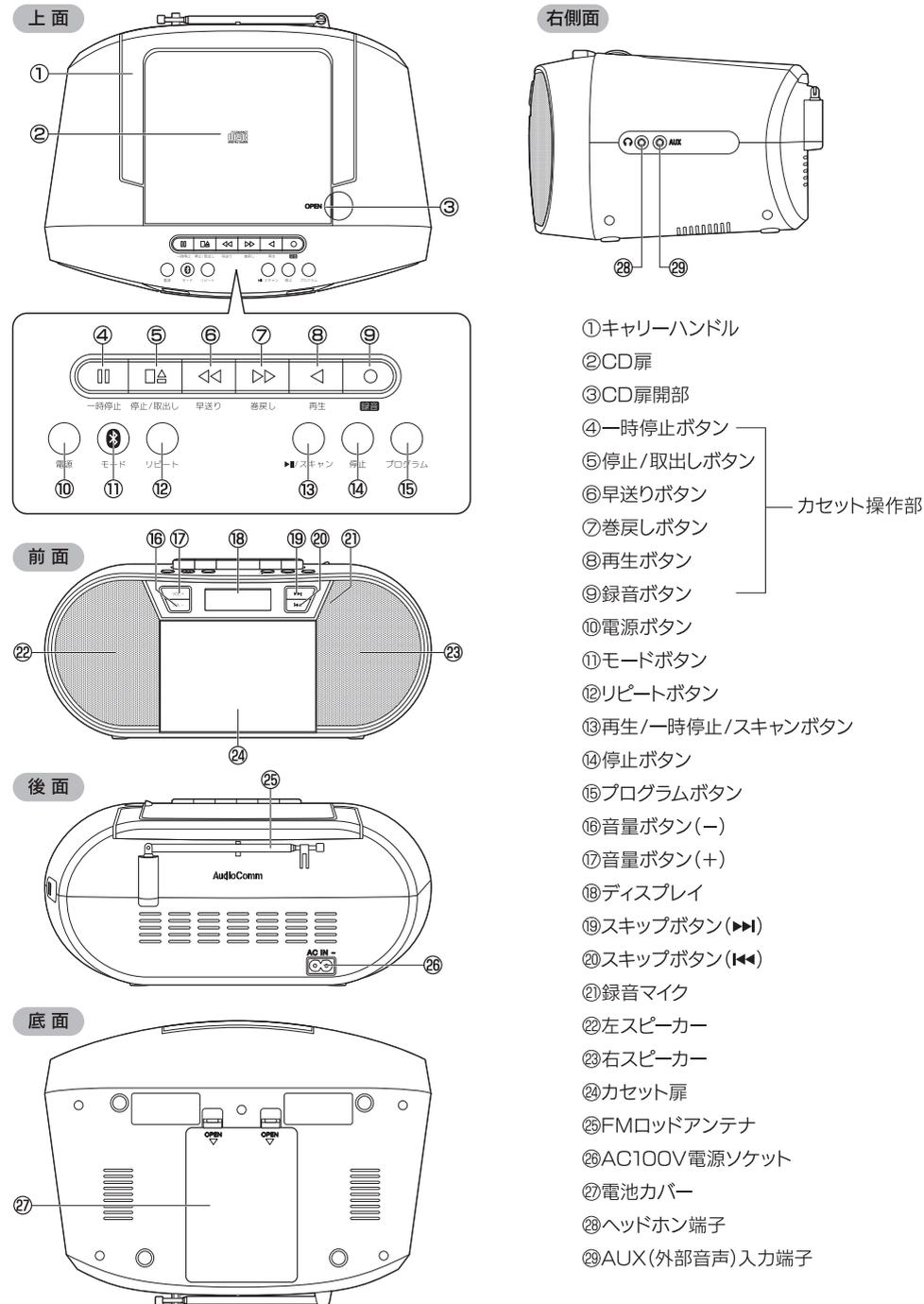
本機は電波法にもとづく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けていますので、ご使用にあたって無線局の免許は必要ありません。ただし、本機を分解・改造する行為、本機に貼付または印刷されている定格銘板をはがしたり、消したりする行為は、法律により罰せられることがあります。本機は日本国内でのみ使用できます。



医療機器の近くで使用の際は、特に注意してください

- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を中止する。
- 植込み型心臓ペースメーカー、または植込み型除細動器を装着している場合は、装着部から本機を22cm以上離す(ペースメーカー及び除細動器の動作に影響を及ぼすおそれがあります)。
- 医療機器及び人命に直接的または間接的に関わるシステム、高い安全性や信頼性が求められる環境下では絶対に使わない。手術室、集中治療室(ICU)、冠動脈疾患監視病室(CCU)には持ち込まない。
- 医療機関内で無線機器の使用を禁止された区域では、本機の電源を切る。ロビーなどでも、周囲に医療機器がある場所では電源を切る。
- 無線機器の使用が制限された区域では、医療機関による使用制限や使用禁止指示を必ず守る。使うときは、事前に施設管理者などに確認する。
- その他の場所で使うときでも、混雑している状況下では、十分注意する(周囲に植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器を使用している人がいる可能性があります)。
- 植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器を装着し、自宅などで療養中の場合は、使用前に、電波による影響について個別に医療機器メーカーなどに確認する(医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります)。

各部の名称



電源について

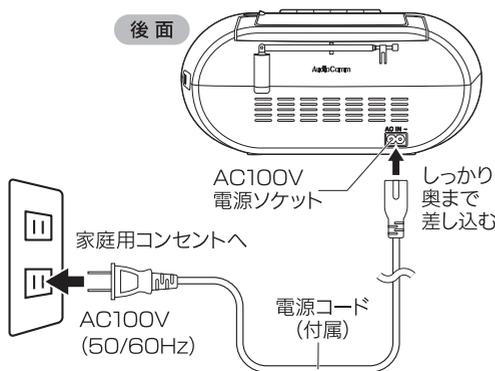


- 電源プラグを抜き差ししたり、乾電池を出し入れするときは、電源が切れた状態で行ってください。
- 電源を切る前に音量を最小にしてください。次に電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用電源で使うには

電源コード(付属)で本機のAC100V電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

- 乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り換わります。
- 本機を使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。



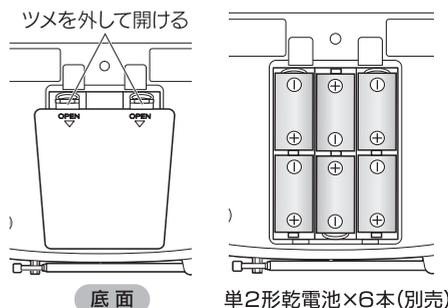
乾電池(別売)で使うには

1 ツメを外して底面の電池カバーを開けます。

2 単2形乾電池×6本(別売)を、⊕の向きに注意しながら正しく入れます。

- コイルパネのあるほうが⊖(マイナス)です。⊕側から入れてください。

3 電池カバーを元どおりに確実に閉めます。



ご注意

- 付属の電源コードは本機専用です。本機をご使用の際には、必ず付属の電源コードをお使いください。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。
- 乾電池で使うときは、アルカリ乾電池をお使いください。マンガン乾電池や充電式乾電池では使用可能時間が短くなります。長時間使うときは電源コードでの使用をおすすめします。
- 乾電池が消耗すると、音量が小さくなったり、雑音が多くなったりします。このような状態になったら、早めに新しいものと交換してください。

電源のオン/オフとモード切替



電源ボタンを長押しすると電源が入ります。

- ディスプレイのバックライトが点灯し、選択中のモードが表示されます。

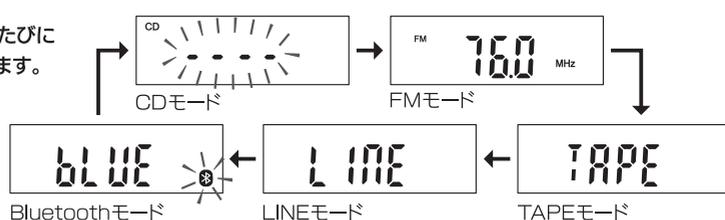
電源が入っているときに

電源ボタンを長押しすると電源が切れます。

- ディスプレイのバックライトが消灯し、表示が消えます。

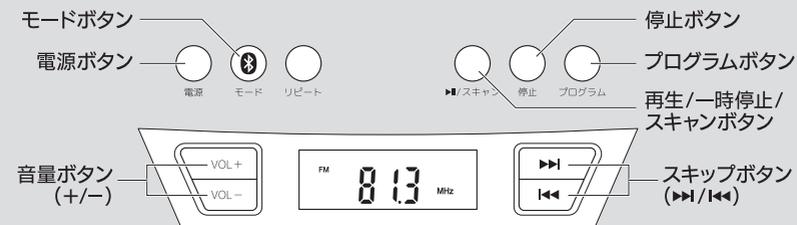


モードボタンを押すたびにモードが切り換わります。



ラジオを聴く

本機のラジオ機能はFMラジオ専用です。AMラジオは受信できません。



1 電源ボタンを長押しして電源を入れた後、モードボタンでFMモードを選びます。



FMモードの表示例

2 スキップボタン(▶▶/◀◀)を押してお聴きになりたい放送局の周波数に合わせます。

- 長押しすると周波数が自動で送られ、いちばん最初に受信できた放送局で止まります。
- FMステレオ放送を良好な状態で受信すると「ST」マークが点灯します。



FMモードの表示例(0.1MHzステップ)

ヒント

- 再生/一時停止/スキャンボタンを押すと、ステレオ⇄モノラルを切り換えることができます。雑音が多いときはモノラルにすると聴きやすくなる場合があります。

3 音量ボタン(+/-)で音量を調節します。

- 音量の上げすぎにご注意ください。
- 一時的に音量レベルが表示されます。



音量表示例
00~31の間で調節できます。

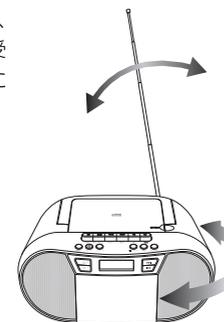
4 終了するときは、電源ボタンを長押しして電源を切ります。

受信状態を良くするには

FMロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変えて、受信状態が最も良くなるように調節してください。

ご注意

- 持ち運ぶときは、危険ですので必ずFMロッドアンテナを縮めてください。



ワイドFM(FM補完放送)について

ワイドFM(FM補完放送)とは、AM放送エリアにおける難聴・災害対策のために、AM放送の番組をFM放送用の周波数を用いて放送するものです。これにより、AM放送が聴き取りにくい地域でも、FM放送でAMラジオの番組を聴くことができます。日本全国の民放AMラジオ47局のうち、44局は2028年までにFM局への転換を目指しています。詳しくは各地域のラジオ局ホームページをご覧ください。

ラジオを聴く(つづき)

プリセット登録

自動プリセット

お使いの場所で受信可能な放送局を一括して登録することができます。

ラジオ受信中に再生/一時停止/スキャンボタンを長押しします。

- 周波数が自動で送られ、受信可能な放送局が見つかる時、一時的に受信しながら順に登録していきます(「プログラム」とプリセット番号が点滅します)。
- オートスキャンが終わると、いちばん最初に登録された放送局を受信します。



ヒントとご注意

- 自動と手動を合わせて、最大20局まで登録できます。
- 自動プリセットで放送局がうまく登録できないときは、手動プリセットで登録してください。
- 自動プリセットで登録した内容を、手動プリセットにより上書きすることはできませんが、消去することはできません。また、すでに手動プリセットで任意の放送局が登録されている場合、自動プリセット登録を行なうと内容がリセットされ、手動プリセットの内容は上書きされます。
- 手動プリセット番号は、未登録番号を飛ばして登録できません(例：P08まで登録済みの場合、P09は表示されて登録できますが、P10以降の番号は表示されません)。

登録した放送局を受信するには(自動プリセット・手動プリセット共通)

プログラムボタンを押した後、スキップボタン(▶▶/◀◀)を押して、お聴きになりたい放送局のプリセット番号を選びます。

- プリセット番号が表示されている間に操作してください。
- プリセット選局時は「プログラム」が表示されます。



手動プリセット

普段よく聴く放送局を任意のプリセット番号に登録することができます。

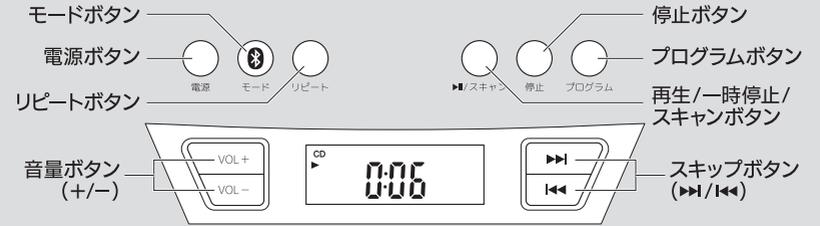
- 1 登録したい放送局を受信している状態で、プログラムボタンを長押しします。
 - 「プログラム」とプリセット番号が点滅します。点滅する間に②の操作をしてください。



- 2 スキップボタン(▶▶/◀◀)で登録したいプリセット番号を選び、プログラムボタンを押すと、登録が完了します。
 - プリセット番号を変えずに登録するときは、そのままプログラムボタンを押すか、しばらく待つと登録が完了します(点滅が止まります)。

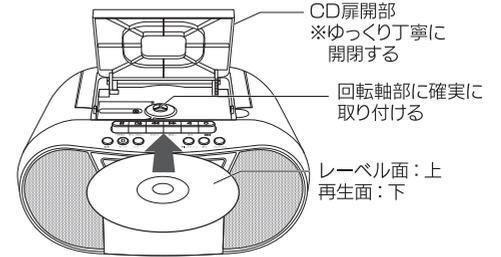


CDを聴く



- 1 CD扉開部を指先でゆっくりと持ち上げてCD扉を開け、ディスクを装着します。

- レーベル面を上にして、ディスクの取り付け穴を回転軸部に丁寧にしっかりと装着してください。
- 装着したら、CD扉を確実に閉めます。



- 2 電源ボタンを長押しして電源を入れた後、モードボタンでCDモードを選びます。

- CDモードを選ぶと「- - -」が点滅して読み込みが始まります。その後、一時的に総曲数を表示し、自動で再生が始まります。



総曲数表示例

再生中はトラック番号表示と経過時間表示が約5秒ごとに切り換わります。

- 3 音量ボタン(+/-)で音量を調節します。

- 音量の上げすぎにご注意ください。
- 一時的に音量レベルが表示されます。



音量表示例
00~31の間で調節できます。

- 4 再生中に再生/一時停止スキャンボタンを押すと、再生を一時停止します。

- 一時停止中は経過時間表示となり、再生マークが点滅します。
- もう一度押すと、再生を再開します。

- 5 再生を止めるときは、停止ボタンを押します。

- 総曲数を表示します。

- 6 終了するときは、電源ボタンを長押しして電源を切ります。

ヒントとご注意

- CD扉の開閉及びディスクの着脱は、ゆっくり丁寧に行ってください。勢いよく開閉したり、ディスクを強く押し込んだり、無理に取り外そうとすると、破損や故障の原因となります。
- 再生中にCD扉を開けないでください。また、CD扉を開けたときにディスクが回転しているときは、指先で押さえつけて止めないでください。けがや故障の原因となります。
- ディスクが正しく装着されていなかったり、本機が対応していないディスクの場合、読み込み開始後、しばらくすると「No Cd」または「Err」と表示されます。
- 使い終わった後は、必ず本機からディスクを取り出してケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、ディスクを取り出した後はCD扉を必ず閉めてください。
- 本機にはレジューム機能があり、再生途中で他のモードに切り換えても、次回CD再生時には同じ位置から再生が始まります。

CDを聴く(つづき)

スキップボタンの操作方法

停止中、再生中、再生中の長押しといったそれぞれの状態に応じて、機能が異なります。

ボタン	停止中に押す	再生中に押す	再生中に長押しする
	次の曲を選択	次の曲を再生	聴いている曲を早送り。指を離れた時点から再生を再開
	1つ前の曲を選択	曲の最初に戻って再生。2回続けて押すと1つ前の曲を再生。以降、続けて押すごとに1曲ずつ前に戻って再生	聴いている曲を早戻し。指を離れた時点から再生を再開

※再生中に長押しすると、経過時間表示とともに断片的に再生音が流れますので、お好みのところで指を離してください。

プログラム再生



プログラム

- 再生停止中にプログラムボタンを押します。
 - 「プログラム」と曲順番号「P01」が点滅します。
- スキップボタン(▶▶/◀◀)を押して登録したい曲番号を選び、プログラムボタンを押します。
 - 曲順番号「02」が表示された後、2番目に登録したい曲を選択できるようになります。
- ステップ②の操作を繰り返して、プログラムを登録します。
 - 最大20曲まで登録できます。すべて登録した場合は、「FULL」と表示されます。
- 再生/一時停止/スキャンボタンを押すと、プログラム再生が始まります。
 - プログラム再生時は「プログラム」が表示されます。

再生中はトラック番号表示と経過時間表示が約5秒ごとに切り換わります。
- 再生を止めるときは、停止ボタンを押します。
 - 停止ボタンを1回押した場合、再生は停止しますが登録したプログラム内容は残っています。この状態で再生/一時停止/スキャンボタンを押すと、もう一度プログラムの最初から再生します。
 - 停止ボタンを2回押すと、プログラムが解除されます。

ヒントとご注意

- 登録中にプログラム(再生順)を修正するには、停止ボタンを押してキャンセルし、改めて最初から登録し直してください。
- プログラム再生開始後は、停止ボタンを2回押した場合のほか、以下のいずれかの操作をするとプログラムが解除されます。
 - ・CD扉を開ける
 - ・別のファンクションに移行する
 - ・電源を切る
- プログラム再生と全曲リピート再生を併用すると、プログラムした曲順で繰り返し再生することができます。リピート設定はプログラム再生開始後に操作してください。

1曲リピート再生・全曲リピート再生・ランダム再生



リピート

- 1曲リピート再生**
再生または一時停止中にリピートボタンを1回押すと、「リピート」が点滅し、聴いている曲を繰り返し再生します。



- 全曲リピート再生**
再生または一時停止中にリピートボタンを2回押すと、「リピート」が点灯し、ディスク内の全曲を繰り返し再生します。



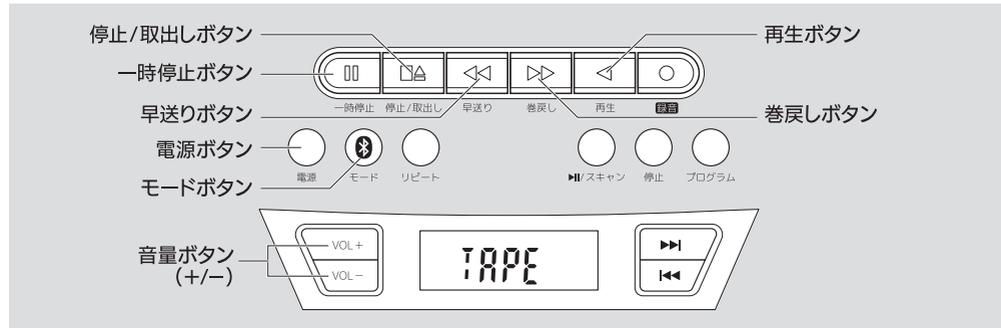
- ランダム再生**
再生または一時停止中にリピートボタンを3回押すと、「ランダム」が表示され、ディスク内の全曲をランダムに再生します。



ヒント

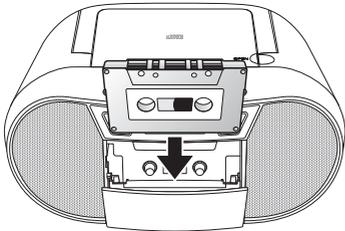
- リピート再生やランダム再生を解除するには、ディスプレイの再生モード表示が消えるまで、リピートボタンを数回押してください。

カセットテープを聴く



本機で再生できるカセットテープの種類や再生を始める前の準備、その他のヒントや注意事項は、P.6もあわせてご確認ください。

- 1 停止/取出しボタンを押してカセット扉を開け、カセットテープを入れます。
入れ終わったらカセット扉を確実に閉めます。
●テープが見えるほうを上にし、再生面を手前にして入れます。
●カセット扉を閉めるときは、カチッと音がするまでしっかりと閉めてください。



- 2 電源ボタンを長押しして電源を入れた後、モードボタンでTAPEモードを選びます。



- 3 再生ボタンを押すと再生が始まります。

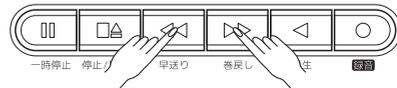
- 4 音量ボタン(+/-)で音量を調節します。
●音量の上げすぎにご注意ください。
●一時的に音量レベルが表示されます。



音量表示例
00~31の間で調節
できます。

- 5 再生中に一時停止ボタンを押すと、再生を一時停止します。
●もう一度押すと、再生を再開します。
- 6 再生を止めるときは、停止ボタンを押します。
- 7 終了するときには、電源ボタンを長押しして電源を切ります。

早送り・巻戻しについて



早送りボタン…テープを早送ります。
巻戻しボタン…テープを巻戻します。

ご注意

- カセット扉の開閉はゆっくり丁寧に行なってください。力を入れすぎると破損するおそれがあります。
- テープ動作中の早送り・巻戻し操作は、テープの巻きつきや故障の原因となります。必ず停止ボタンを押してから行なってください。
- 使い終わったら、必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、カセットテープを取り出した後はカセット扉を必ず閉めてください。

Bluetoothで音楽などを楽しむ

本機は離れた場所にあるBluetooth対応機器(相手側機器：タブレット端末やスマートフォン、Bluetooth対応音楽プレーヤーなど)の音楽をワイヤレスで聴くことができます。初めての機器とBluetooth接続するときは、必ずペアリング(本機と相手側機器を相互に初期登録する操作)してください。

ペアリングのしかた

- ペアリングする前に相手側機器の電源を入れ、本機と約1m以内(障害物なし)に近づけてください。
- 本機がすでに別の機器とBluetooth接続していたり、相手側機器が他の機器と接続中は、本機とのペアリングはできません。その場合は、本機及び相手側機器の既存の接続を解除したうえで、ペアリングしてください。
- 本機はBluetooth標準規格 Ver.6.0(プロファイル：A2DP、AVRCP、AVDTP、AVCTP)に対応しています。複数のプロファイルに対応している機器の中には、プロファイルの選択が必要な機種もあります。その場合は、上記のいずれかを選択してください。それ以外のプロファイルでの動作は保証しかねます。

- 1 相手側機器の電源を入れ、本機と約1m以内に近づけます。

- 障害物を置かないでください。

- 2 電源ボタンを長押しして電源を入れた後、モードボタンでBluetoothモードを選びます。

- Bluetoothマークが点滅し、接続可能な相手側機器を探している状態(サーチモード)になります。



- 3 相手側機器で本機を登録します。

Bluetoothの設定画面を開く

iPhone : [設定]→[Bluetooth]

Android : [設定]→[Bluetooth] または [設定]→[無線とネットワーク]→[Bluetooth設定]

上記は一例です。各機器付属の取扱説明書を参照して、Bluetooth機器の検索・登録画面へ進んでください。

本機を登録する

相手側機器で本機の名称「RCD-720T」が表示されたら、それを選択して登録します。パスキーやPINコードを求められた場合は「0000」と入力してください。

※相手側機器によってはご自身で設定されたパスコードが必要な場合があります。

ペアリングが完了すると…

電子音が鳴ってBluetoothマークの点滅が点灯に変わり、本機を使用できる状態になります。相手側機器で再生などの操作をしてください。機器や使用アプリによっては、本機の再生/一時停止/スキャンボタンで、再生を始められる場合もあります。

ヒントとご注意

- サーチモードのまま時間が経過しても、本機の電源は切れませんのでご注意ください。
- 最後に使用したペアリング済み相手側機器の電源が入っており、Bluetooth接続可能な状態のときは、本機の電源を入れ、Bluetoothモードにすると、自動的に接続されます。ただし、機種によってその都度接続操作が必要な場合は、機器付属の取扱説明書を参照し、本機との接続を確立してからお使いください。

Bluetoothで音楽などを楽しむ(つづき)

本機での操作

ボタン	動作	ボタン	動作
VOL+	音量を上げる※	モード	モードを切り換える
VOL-	音量を下げる	再生/一時停止	再生⇄一時停止

※Bluetooth接続直後の再生では音量が小さいことがあります。そのときは本機及び相手側機器双方の音量を少しずつ上げ、バランスを見ながら調節してください(音量の上げすぎにご注意ください)。片方だけを大きくすると、音が割れたり、別のモードに移行したときに思わぬ大音量になるおそれがありますので十分ご注意ください。

ボタン	停止中に押す	再生中に押す
▶▶	次の曲を選択	次の曲に移動して再生
◀◀	1つ前の曲を選択	曲の最初に戻って再生。2回続けて押すと、1つ前の曲を再生。以降、続けて押すごとに、1つずつ前の曲に戻って再生

※接続する相手側機器により、上記と動作が異なっていたり、機能しない場合があります。

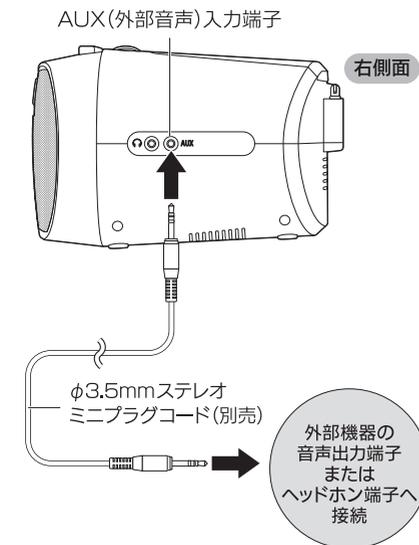
ヒントとご注意

- 使用中に接続が途切れたり、正常に動作しなくなったときは、相手側機器との間に障害物があったり、距離が離れていないかを確認してください。その後、本機及び相手側機器の電源を入れ直して、正常に戻るか確認してください。それでも改善されない場合は、相手側機器で本機の登録を削除し、ペアリングし直してください。
- 意図しない機器と接続されてしまう場合は、その機器の電源を切るかBluetooth機能をオフにしてから操作をやり直してください。
- 本機に通話機能はありません。スマートフォンと接続しているときに電話着信があると、再生が中断します。スマートフォン側で電話に出るなどの操作をしてください。通話を終了すると再生を再開します。

外部機器を接続しスピーカーとして使う

別売のφ3.5mmステレオミニプラグコードを使って、外部機器(ポータブルCDプレーヤーやデジタルオーディオプレーヤーなど)と接続し、音楽や音声を楽しむことができます。

ご注意 ●コードを接続するときや取り外すときは、必ず事前に双方の電源を切ってください。



- 1 φ3.5mmステレオミニプラグコード(別売)を使って、外部機器の音声出力端子またはヘッドホン端子と、本機のAUX(外部音声)入力端子を接続します。
- 2 外部機器→本機の順で電源を入れ、モードボタンでLINEモードを選びます。

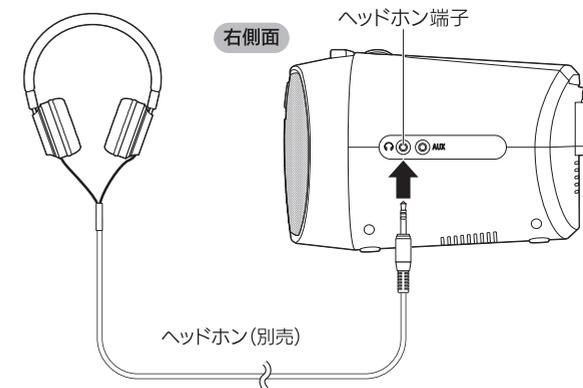
- 3 外部機器側で再生などの操作をします。
 ●音量の調節は、本機・外部機器のどちらでも可能ですが、できるだけ本機の音量は一定に保ち、外部機器側で操作するようにしてください。本機の音量設定を大きくしすぎると、他のモードに移行したとき、思わぬ大音量になるおそれがあります。
- 4 終了するときは双方の電源を切ります。
 ●接続を解除するときは、必ず事前に双方の電源を切ってください。

ヘッドホンで聴くときは

別売のヘッドホン(φ3.5mmステレオミニプラグ)を、ヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。

ご注意

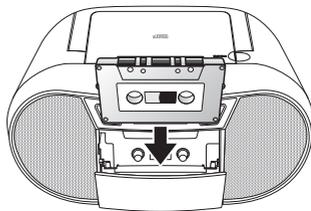
ヘッドホンをご使用の際は、本機の音量を下げた状態でヘッドホン端子に接続してください。また、使用時の音量の上げすぎにもご注意ください。聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



カセットテープに録音する

 本機で録音できるカセットテープの種類や録音を始める前の準備、その他のヒントや注意事項は、P.6もあわせてご確認ください。

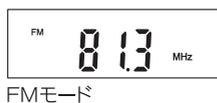
- 1 停止/取出しボタンを押してカセット扉を開け、カセットテープを入れます。
入れ終わったらカセット扉を確実に閉めます。
●テープが見えるほうを上にし、録音する面を手前に入れます。
●カセット扉を閉めるときは、カチッと音がするまでしっかりと閉めてください。



- 2 電源ボタンを長押しして電源を入れ、音源に応じて以下の準備をします。

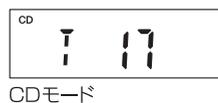
FMラジオを録音するとき

モードボタンでFMモードを選び、録音したい放送局を受信します(P.10~11参照)。



CDを録音するとき

モードボタンでCDモードを選び、録音したいCDを装着します(P.12~14参照)。



AUX接続の外部機器から録音するとき

モードボタンでLINEモードを選び、録音したい音楽ファイルなどを準備します(P.18参照)。



Bluetooth接続の外部機器から録音するとき

モードボタンでBluetoothモードを選び、接続したうえで再生の準備をします(P.16~17参照)。

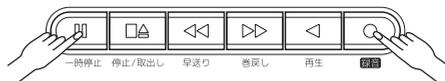


録音マイク(内蔵)で周囲の音を録音するとき

モードボタンでTAPEモードを選び、録音マイク部を音源に向けて近づけます。



- 3 一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押して、録音待機状態にします。
●録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がります。



- 4 録音を開始したいところで一時停止ボタンを押すと、待機状態が解除されて録音が始まります。



ラジオを録音するとき

ラジオ放送を聴きながら、録音を開始したいところで一時停止ボタンを押して待機状態を解除してください。

AUX接続の外部機器から録音するとき

外部機器で録音したいファイルを再生し、すぐに一時停止ボタンを押して待機状態を解除してください。

録音マイク(内蔵)で周囲の音を録音するとき

録音を開始したいところで一時停止ボタンを押して、待機状態を解除してください。

CDを録音するとき

CDを再生し、すぐに一時停止ボタンを押して待機状態を解除してください。

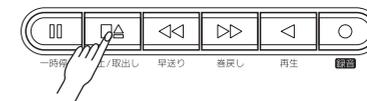
Bluetooth接続の外部機器から録音するとき

相手側機器で録音したいファイルを再生し、すぐに一時停止ボタンを押して待機状態を解除してください。

- 5 録音を一時停止したいときは、一時停止ボタンを押します。
●もう一度押すと、録音を再開します。



- 6 録音を終わるときは、停止/取出しボタンを押します。
●ラジオの場合はそのまま受信状態が続きます。その他の音源の場合も再生が続きますので、必要に応じて停止操作をしてください。



- 7 使い終わったら、電源ボタンを長押しして電源を切ります。

ヒントとご注意

- カセット扉・CD扉の開閉は丁寧に行なってください。力を入れすぎると破損するおそれがあります。
- ステップ⑥を終了、音源の準備・再生操作などを行った後、すぐに録音ボタンを押すことでも録音を開始できます。状況に応じて操作してください。
- 本機の録音レベルは一定ですが、Bluetooth接続やAUX接続で録音する場合は、外部機器の音量レベルにより影響を受けることがあります。事前に試し録りをして確認することをおすすめします。
- 使い終わったら、必ず本機からカセットテープやCDを取り出し、ケースに入れて保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、カセット扉やCD扉は必ず閉めてください。

故障かなと思ったら

症状	チェック項目
全般	
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードが本機及び家庭用コンセントにしっかりと差し込まれていますか。 電源ボタンを長押ししましたか(短く押しませんか)。 乾電池は正しく入っていますか。 乾電池が消耗していませんか。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> 音量が最小になっていませんか。 ヘッドホン端子にヘッドホンが差し込まれていませんか。
ラジオ	
ラジオを受信できない	<ul style="list-style-type: none"> モードボタンでFMモードを選びましたか。 周波数は正しいですか。
ラジオに雑音が入る	<ul style="list-style-type: none"> 近くで携帯電話を使用していませんか。
自動プリセットで登録がうまくできない	<ul style="list-style-type: none"> 受信環境が良くないと登録局数に影響を与えます。本機やFMロッドアンテナの向きを変える、窓際などに移動させる、時間帯を変えるなどしてお試しください。 自動プリセットで登録されない放送局は手動プリセットで登録してみてください。
CD	
CDの再生が始まらない	<ul style="list-style-type: none"> CDモードになっていますか。 CDが裏返しに入っていませんか。 CDがひどく汚れていませんか。 規格外のディスクが入っていませんか。 レンズがひどく汚れていませんか。 CD扉がしっかりと閉まっていますか。 MP3など圧縮形式のファイルを収録したディスクではありませんか。本機では圧縮形式のファイルは再生できません。
CDの音が出ない 音が飛ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 一時停止状態になっていませんか。 結露状態になっていませんか。 レンズがひどく汚れていませんか。 強い振動を与えていませんか。 CDに大きなキズやひどい汚れはありませんか。
カセットテープ	
カセットが入らない	<ul style="list-style-type: none"> 逆向きに入れようとしていませんか。
テープの音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> 電源を入れましたか。 TAPEモードになっていますか。
テープが走行しない	<ul style="list-style-type: none"> 一時停止ボタンを押していませんか。
テープが機械に巻きつく	<ul style="list-style-type: none"> ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。 テープがたるんでいませんか。 カセット扉がきちんと閉まっていますか。
テープ走行が不安定	<ul style="list-style-type: none"> テープがたるんでいませんか。 乾電池が消耗していませんか。

症状	チェック項目
カセットテープ	
雑音がひどい、音が震える 音飛びがする	<ul style="list-style-type: none"> 乾電池が消耗していませんか。 ヘッド部が汚れていませんか。 テープがたるんでいませんか。
録音ボタンが押せない	<ul style="list-style-type: none"> カセットが入っていますか。 カセット扉がきちんと閉まっていますか。 カセットの誤消去防止用ツメが折れていませんか。
録音できない	<ul style="list-style-type: none"> ヘッド部が汚れていませんか。
前の録音が完全に消去されない	<ul style="list-style-type: none"> 消去ヘッドが汚れていませんか。
Bluetooth	
ペアリングができない	<ul style="list-style-type: none"> モードボタンでBluetoothモードを選びましたか。 相手側機器の電源は入っていますか。 相手側機器は本機のペアリングに対応していますか。 相手側機器が他の機器と接続していませんか。 相手側機器との間に障害物があったり、距離が離れすぎていませんか。
音が出ない。 ノイズやエコー音がしたり 音が途切れる	<ul style="list-style-type: none"> 正しくBluetooth接続されていますか。 本機または相手側機器の音量が最小になっていませんか。 相手側機器との間に障害物があったり、距離が離れすぎていませんか。 無線通信を阻害する電磁波や無線LAN環境の近くで使用していませんか。
2回目以降使用時にBluetooth接続ができない	<ul style="list-style-type: none"> モードボタンでBluetoothモードを選びましたか。 本機及び相手側機器の電源は入っていますか。 相手側機器が他の機器と接続していませんか。 相手側機器がスリープ状態になっていませんか。 相手側機器内で本機の登録が削除されていませんか。
AUX	
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> LINEモードになっていますか。 φ3.5mmステレオミニプラグが正しく接続されていますか。 本機または外部機器の音量が最小になっていませんか。
その他	
ラジオは聴けるが、CDやカセットは動かない	<ul style="list-style-type: none"> 乾電池の消耗がかなり進んでいます。新しい乾電池と交換してください。

お手入れのしかた

お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、誤って電源が入らないようにしてから行ってください。

本体のお手入れ

本体の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、布をぬるま湯か薄めた中性洗剤で湿らせ軽く拭いた後、から拭きしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので、絶対に使用しないでください。

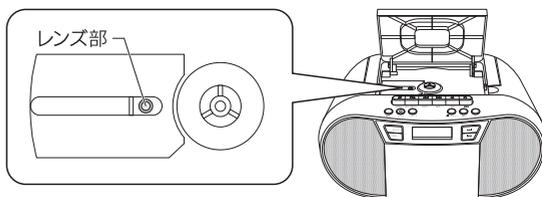


シンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しない

CDプレーヤー・レンズ部のお手入れ

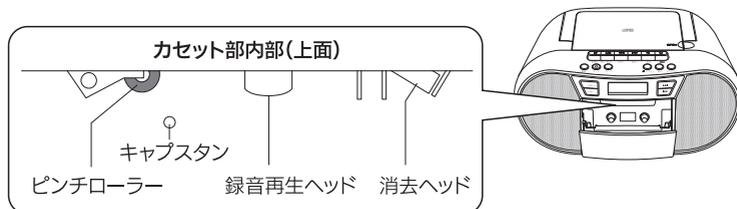
レンズの汚れは音とびなど、再生ができなくなる原因となります。CD扉を開け、レンズについたほこりやゴミを市販のプロワーでクリーニングしてください。

※レンズ部分に布や綿棒などを当てたり、こすらないでください。故障の原因となります。



カセットのヘッド部のお手入れ

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ほこりなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪い、音が小さい、録音できない、前の音が消えないで残る、などの症状が出ます。また、テープが巻き込まれる原因にもなりますので、定期的にヘッド部を清掃してください。



カセット扉を開け、別売のクリーニングキットでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。その後、内部についたクリーナー液が十分に乾いてからテープをセットしてください。

ご注意

- 録音再生ヘッドの消磁を行なうには市販の消磁器をお使いください。カセットタイプの消磁器をお使いになるときは、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。
- 本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

主な仕様

全般

電源	AC100V 50/60Hz
	DC9V 単2形乾電池×6本(別売)
定格消費電力	16W
定格出力	3W×2(Bluetooth使用時:4.5W×2)
スピーカー	口径76mm×2(インピーダンス4Ω)
接続端子	ヘッドホン:φ3.5mmステレオミニジャック
	外部音声入力:φ3.5mmステレオミニジャック
乾電池での使用可能時間	FMラジオ:約59時間 CD:約24時間
	カセットテープ:約37時間 Bluetooth:約46時間
外形寸法	幅300×高さ139×奥行220mm(突起物含まず)
質量	約1500g(乾電池含まず)
付属品	専用電源コード、保証書付取扱説明書

ラジオ

受信周波数	76~108MHz
アンテナ	FMロッドアンテナ

CD

チャンネル数	2チャンネルステレオ
サンプリング周波数	44.1kHz
再生可能ディスク	CD、CD-R/RW(MP3などの圧縮形式ファイルには非対応)

カセットテープ

トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
録音方式	直流バイアス
消去方式	マグネット消去

Bluetooth

通信方式	Bluetooth標準規格 Ver.6.0
プロファイル	A2DP、AVRCP、AVDTP、AVCTP
コーデック	SBC、AAC
変調方式/周波数帯域	GFSK/2.402~2.480GHz
最大通信距離	見通し約10m(Class2)
再生周波数帯域	55Hz~20kHz(A2DP)

※乾電池での使用可能時間はアルカリ乾電池新品使用時、音量中程度の場合の目安です。使用環境などにより異なります。※Bluetoothの最大通信距離は目安であり、使用状況によって異なります。

※Bluetooth及びBluetoothロゴマークは、Bluetooth SIG,INC.の商標で、当社はライセンスに基づき使用しています。

※本書に記載している商品名、システム名、社名などは、一般に各社の商標または登録商標です。

※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。

※本製品は、特定無線設備として日本国電波法第38条の24第1項の規定に基づく認証を受けています。

※本書の図版は実際の製品と一部異なる場合があります。

